

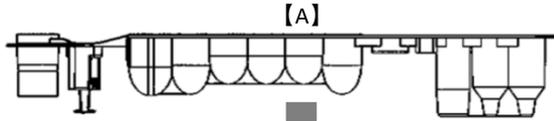
XX-X-XX

## 自動処理\_FFPE 組織切片サンプルからのゲノム DNA 分離

### プロトコル

FFPE 組織ブロックから組織切片\*1を数枚作製し、2mL マイクロチューブ\*2にいれる

試薬ストリップを取り出し、ウェル【A】の位置に EDT を 40 $\mu$ L 添加\*3する



脱パラフィン試薬(DDF) を 5 滴(約 300 $\mu$ L) サンプルに添加

ボルテックス(最大回転数): 15 秒

スピンドウン\*4

装置にセット

Protocol: DNA FFPE  
(溶出液量 : 100  $\mu$ L\*5)

\*サンプルチューブのセット方法については、

Quick Start Guide または取扱説明書を参照してください。

1. 270  $\mu$ L の MDF(EDF 入り)を添加
2. ピペッティングにより攪拌
3. インキュベーション(65°C、30 分)
4. インキュベーション(90°C、45 分)
5. サンプル下層を移液後、230  $\mu$ L の LDF と混合
6. ピペッティングにより攪拌
7. 240  $\mu$ L のエタノール(>99%)と混合
8. ピペッティングにより攪拌(ライセート完成)
9. ライセートをカートリッジにアプライ
10. 加圧
11. Wash Buffer(WDF)で 3 回洗浄
12. 溶出液(CDF)を添加し、ゲノム DNA をコレクションチューブに回収

ゲノム DNA

\*1  
5  $\mu$ m 厚の場合 : 1~10 枚、  
10  $\mu$ m 厚の場合 : 1~5 枚ま  
で使用可能です。また、表  
面積は 250  $\text{mm}^2$ まで使用可  
能です。

\*2  
推奨のマイクロチューブ  
#BM4020 (ビーエム機器)  
#72.695.700(SARSTEDT)  
#72.695.500S(SARSTEDT)

\*3  
マイクロピペッターを使用  
し、チップ先端でアルミ包  
装を破って充填してくださ  
い。

\*4  
12,000 rpm 以上で遠心して  
ください。

\*5  
推奨溶出量は 100 $\mu$ L です。

サンプルの種類・保存条件などによっては分離できない場合があります。  
データに関しては保証しておりません。  
分離した核酸には目的以外の核酸(例: DNA 分離には RNA)が含まれています。

## 結果

マウス胎仔 18.5d FFPE 組織切片(10  $\mu$ m 厚 3 枚)から QuickGene-Auto12S を使用してゲノム DNA を分離しました。

### ゲノム DNA の収量(Qubit 測定)

サンプル		#1	#2	#3
収量 ( $\mu$ g)	QuickGene	16.7	13.8	13.0
	A 社キット	11.8	11.2	8.0

### タンパク質の混入：A260/280

サンプル		#1	#2	#3
A260/280	QuickGene	1.97	1.98	1.98
	A 社キット	2.01	2.02	2.01

## 共通プロトコルサンプル

サンプルの種類・保存条件などによっては分離できない場合があります。  
データに関しては保証しておりません。  
分離した核酸には目的以外の核酸（例：DNA 分離には RNA）が含まれています。